令和７年度　新潟県立新発田病院附属看護専門学校　学校評価

令和８年３月

【R７年度の取組】

Ⅰ．卒業生の卒後の活動状況からディプロマポリシー（DP）達成状況を評価するため、卒業生及び所属上司へアンケート調査を実施する。

Ⅱ．学生の実習評価アンケートを、多様な意見が反映できるよう検討し実施する。

【取組結果】

Ⅰについて：卒業生及び所属上司へのアンケート結果　回収率：卒業生 65.6%　所属上司：78.1%

卒後 1 年目の卒業生 32 名とその所属上司である看護師長 32 名へアンケート調査を実施した。卒業生 21 名、看護師長 25 名から回答が得られた。

卒業生は、卒業時に身に着けておく力「豊かな人間力」「看護を実践する力」について自己評価が高かった。「探究する力」「連携・協働する力」の評価は低かった。

卒業生と看護師長の評価の相違が大きかった力は「看護を実践する力」「探究する力」であった。特に看護師長は「看護を実践する力」の下位項目の「論理的な考えに基づき実践する」と「実践した看護を客観的に事実・結果から振り返る」が弱いと評価していた。

看護師長が看護基礎教育で培って欲しい内容として①自分の意見を分かり易く伝えること、②他者の価値観を受け止めること、③社会のルールや約束を守ることが上位を占めていた。また、自由記載には、①自ら学ぶこと、②臨機応変な対応、③実習と臨床のギャップの認識、④基礎体力をつける等があった。

Ⅱについて：アンケートの項目数を減らし、項目ごとに自由記載欄を設けた。

自由記載の内容が具体的かつ多く得られたことで、各教員が指導方法を見直す機会となった。一方で、学生の意見が実習終了後のため、実習期間中に還元できない課題も明らかになった。

今年度は、実習終了翌日に学生に一斉にアンケートに答えてもらう方法をとり、回答への強制力が働いていたため、アンケートの入力方法について検討する必要がある。

【R８年度の取組】

卒業生へのアンケート結果から、本校の DP である「看護を実践する力」「探究する力」、所属長の看護基礎教育で培って欲しいから内容を踏まえ、社会人基礎力のひとつである「チームで働く力」を強化する。

（１）実習カンファレンスでは、学生主体のカンファレンスを実施し、学生同士が活発に意見交換する場を作る。

（２）学生自身が何を学習すべきか、自らの疑問に気づき、課題が明確になるよう指導し関わる。（講義・演習・実習の全ての教育場面において関わる）

（３）教員は、学生に対し一人の社会人として向き合い、学生が社会人として成長できる態度と関わりを示す。

（４）看護実践力の強化として、看護技術経験録を活用し、技術の習得を促進する。

新潟県立新発田病院附属看護専門学校